

平成29年度自己評価計画書

重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備 考
1 本校の「スクールポリシー」「学力スタンダード」に基づいて、学習指導を実施し、看護師・介護福祉士に求められる学力の向上を図る。	① グループ学習、調べ学習、学び合い学習、ICT機器を効果的に用いた言語活動などの協働学習を積極的に取り入れる。	教務課	昨年度の授業評価で「協働学習の機会を授業で設けている」と評価した生徒の割合が他のアンケート項目より低い。	【努力指標】 主体的・対話的で深い学びとなる工夫を意図的・計画的に授業に取り入れている。	「先生は、ペア学習・班活動・話し合い等、協力して学ぶ機会を設けている」と評価した生徒の割合が A 80%以上 B 75%以上 C 70%以上 D 70%未満 である。	C以下の場合、授業形態、授業内容を再検討する。	生徒による授業評価を7月・12月に実施する。
	② ICT等を活用した発表や討論、事例検討など、他者との対話、思考場面を適宜設定する。	教務課	他者の発言を傾聴する姿勢は身に付きつつある。さらに自らが課題を発見し、協働して解決する力を向上させる必要がある。	【満足度指標】 生徒自らが課題を発見し、協働して解決しようとしている。	「班活動等では、積極的に参加することができた」と自己評価をした生徒の割合が A 75%以上 B 70%以上 C 65%以上 D 65%未満 である。	C以下の場合、指導方法を再検討する。	自分自身の学習の取り組みに対する評価を7月・12月に実施する。
	③ ICT機器、視聴覚教材を効果的に活用し、生徒の学習への関心を高め、内容の理解を促す。	教務課	昨年度の授業評価で「授業は興味深く、学習意欲がわく」に対しての1・2年生の肯定評価が低い。基礎・基本事項の習得を図りながら、学習意欲の向上を図る必要がある。	【満足度指標】 主体的に学習できる工夫が授業にみられる。	「授業は興味深く、学習意欲がわくように工夫されている」と評価した割合が A 80%以上 B 75%以上 C 70%以上 D 70%未満 である。	C以下の場合、授業形態、授業内容を再検討する。	生徒による授業評価を7月・12月に実施する。

重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備 考
2 専門教科指導をより充実させて、専門職に就く者としての資質の向上に努め、看護師・介護福祉士国家試験全員合格を目指す。	① 専門教科の知識・技術の確実な定着を図るため、目標レベルに達するまで補習・個別指導を実施する。	衛生看護科	国家試験演習で、本校が目標とするレベルに達していない生徒がいる。	【成果指標】 国家試験演習の専門科目全ての偏差値40未満の生徒が0人である。	偏差値40未満の生徒が A 0人 B 2人 C 4人 D 5人以上 である。	B以下の場合、指導方法を再検討する。	看護模試(全国)を実施し、評価する。
	② 専門教科の知識・技術の確実な定着を図るため、目標レベルに達するまで補習・個別指導を実施する。	専攻科	国家試験演習で、本校が目標とするレベルに達していない生徒がいる。	【成果指標】 国家試験演習の偏差値40未満の生徒が0人である。	偏差値40未満の生徒が A 0人 B 1人 C 2人 D 3人以上 である。	B以下の場合、指導方法を再検討する。	看護模試(全国)を実施し、評価する。
	③ <1,2年生> 継続して学習することで、学習習慣を身につける。 <3年生> 分野ごとの小テストや個別指導を実施し、専門知識の確実な定着を図る。	健康福祉科	<1,2年生> 家庭学習の習慣化が十分にできていない。 <3年生> 国家試験演習で一定レベルに達していない生徒がいる。	【成果指標】 <1,2年生> 課題(毎日の自学)を提出する生徒の割合が100%である。 <3年生> 国家試験演習及び国家試験の個々の得点率65%以上の生徒の割合が100%である。	<1,2年生> 課題を提出する生徒の割合が A 100% B 95%以上 C 90%以上 D 90%未満 である。 <3年生> 国家試験演習及び国家試験の個々の得点率65%以上の生徒の割合が A 100% B 95%以上 C 90%以上 D 90%未満 である。	<1,2年生> CまたはDの場合は、個別指導を行う。 <3年生> CまたはDの場合は、取り組み方法を検討する。	自学ノートの取組状況を毎日チェックし、その集計を月ごとに行う。 国家試験演習ごとに確認する。

重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備 考
3 課外時間を用いた健康指導を充実させ、看護師・介護福祉士に求められる健康な心・体の育成を図る。	① 部活動の参加率向上を図る。	生徒会	総体以降、部活動の参加が減少する傾向がある。	【成果指標】 部活動に積極的に参加する。	アンケートにて、「部活動に90%以上参加できた」の割合が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満 である。	CまたはDの場合には取り組み方法を検討し、注意喚起を行う。	7月、12月にアンケートを実施する。
	② 縄跳びの実施により、自己記録の更新に努めながら、あきらめない態度の育成や体力の向上を図る。	体育科	昨年度の新体力テストの結果から、筋力と持久力が県平均を下回っているため、向上させる必要がある。	【成果指標】 3分間、縄跳びを跳ぶことができる。	3分間で縄跳びを300回以上跳べる生徒の割合が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満 である。	CまたはDの場合は個別指導を行う。	定期的に計測を行い、記録を提示する。
	③ 立ち止まって丁寧に挨拶をすることができるよう継続指導する。	総務課 生徒会 生徒指導課	校内外問わず、心のこもった丁寧な挨拶がより一層定着するように、継続して指導を行う必要がある。	【成果指標】 保護者アンケートで「立ち止まっての挨拶ができています」との回答が90%以上である。	保護者アンケートで「立ち止まっての挨拶ができています」との回答が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満 である	C以下の場合、指導方法と取り組みの見直しをする。	PTA総会、7月と12月の保護者懇談の3回アンケートを実施する。
	④ いじめに係わる相談や聴き取りを主とした個人面談を定期的・継続的に行うことでいじめ防止に努める。	生徒指導課	いじめは大人が気付きにくく判断しにくい形で行われることが多いため、現在も随時個人面談を実施しているが、今後は組織的計画的に実施し、早期段階での状況把握やその対応に取り組む必要がある。	【成果指標】 生徒がいじめに係わる相談をできるように、生徒全員に対して個人面談を行う。	1年間を通して、いじめに係わる個人面談を行った回数が A 5回以上 B 4回以上 C 3回以上 D 2回以上 E 2回未満 である。	C以下の場合、面談時間確保のための方法について再検討をする。	学期ごとにいじめに係わる個人面談の回数を確認する。 6月、11月には全校生徒を対象としたいじめアンケートを行う。

重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備 考
4 本校の特色ある教育活動や、地域の医療・福祉を支える人材の必要性等の広報に努め、志願者の増加を図る。	① 体験入学、学校説明会と並行して、学校公開日、学校祭等の行事への中学生の参加者増を図り、本校の教育活動への理解を深める。	総務課 教務課	地域の医療機関・福祉施設等への就職者は安定維持しているが、健康福祉科への志願者数は伸び悩んでいる。	【最終成果指標】 昨年度より健康福祉科の志願者数が増加している。	健康福祉科の一般入試の志願者数が募集定員を A 大きく上回った。 B 上回った。 C 下回った。 D 大きく下回った。	C以下の場合は、広報活動の方法の見直しをする。	
	② 小・中学校への福祉の出前授業や本校での交流学习を実施する。	健康福祉科	医療・福祉関係機関には本校の教育への理解が深まっているが、小・中学生の理解は十分ではない。	【成果指標】 小・中学校での福祉の出前授業や本校での交流学习の実施回数が増加する。 (前年度12回)	小・中学校での福祉の出前授業や本校での交流学习の実施回数が A 25回以上 B 20回以上 C 15回以上 D 15回未満 である。	CまたはDの場合は、出前授業実施等の情報提供を再度行う。	